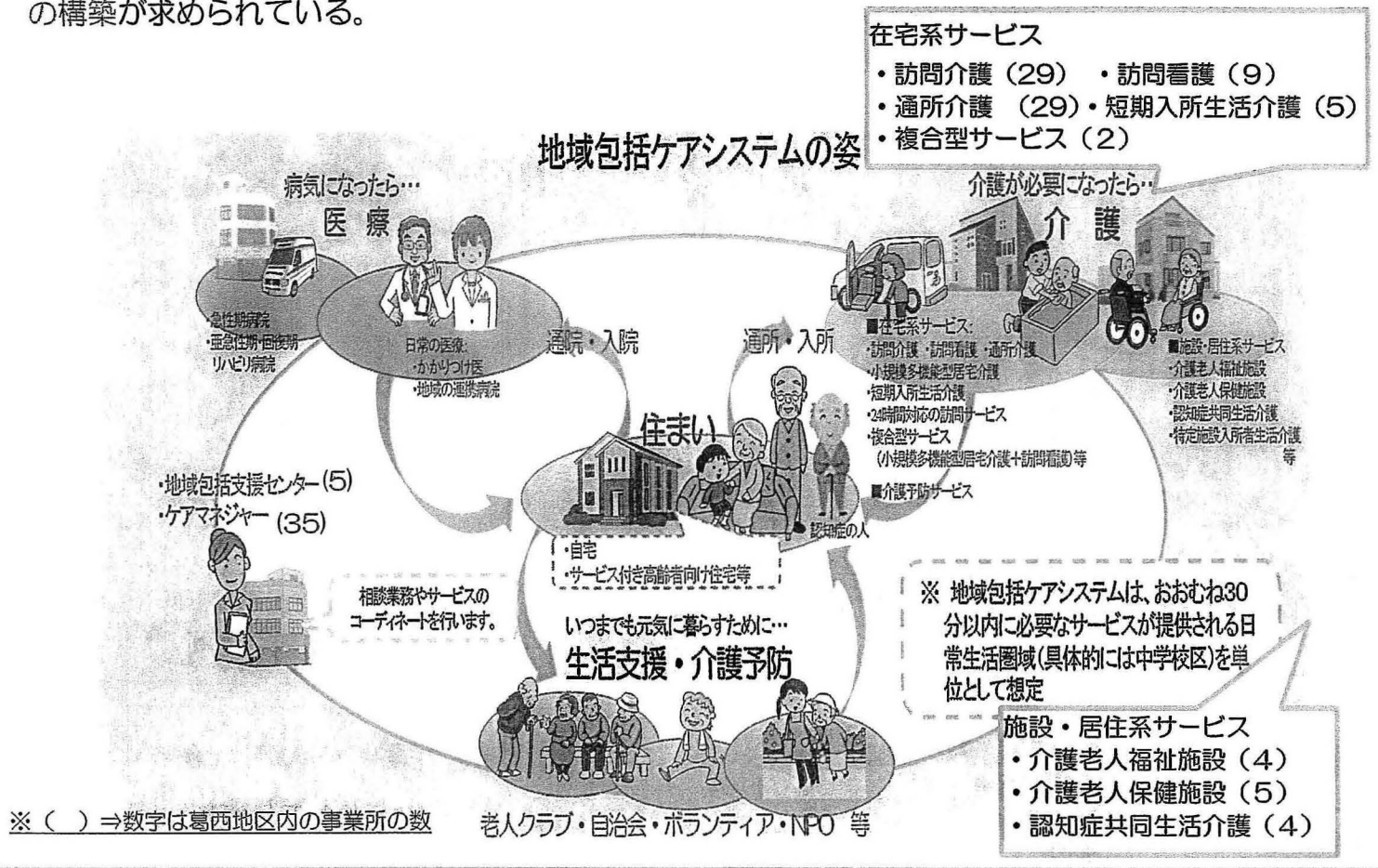


《地域包括ケアシステムとは》

○2025年（11年後）には3.3人に一人が65歳以上と予測。

高齢化が進んでも住み慣れた地で暮らし続けるために、地域の特色を生かした『地域包括ケアシステム』の構築が求められている。



《熟年相談室なぎさ和楽苑から見た、わが町『葛西地区』は！？》

①主な担当圏域の平均高齢化率は16%（資料1、資料2）

- ・全国の高齢化率25%と比べ数値は低い、高齢化率が20%を超えている地域もある。  
※高齢化率7%～「高齢化社会」/高齢化率14%～「高齢社会」/高齢化率21%～「超高齢社会」  
⇒既に10年後を見据えた取り組みが必要となっている。

②相談活動、地域活動を通して見えてきた課題

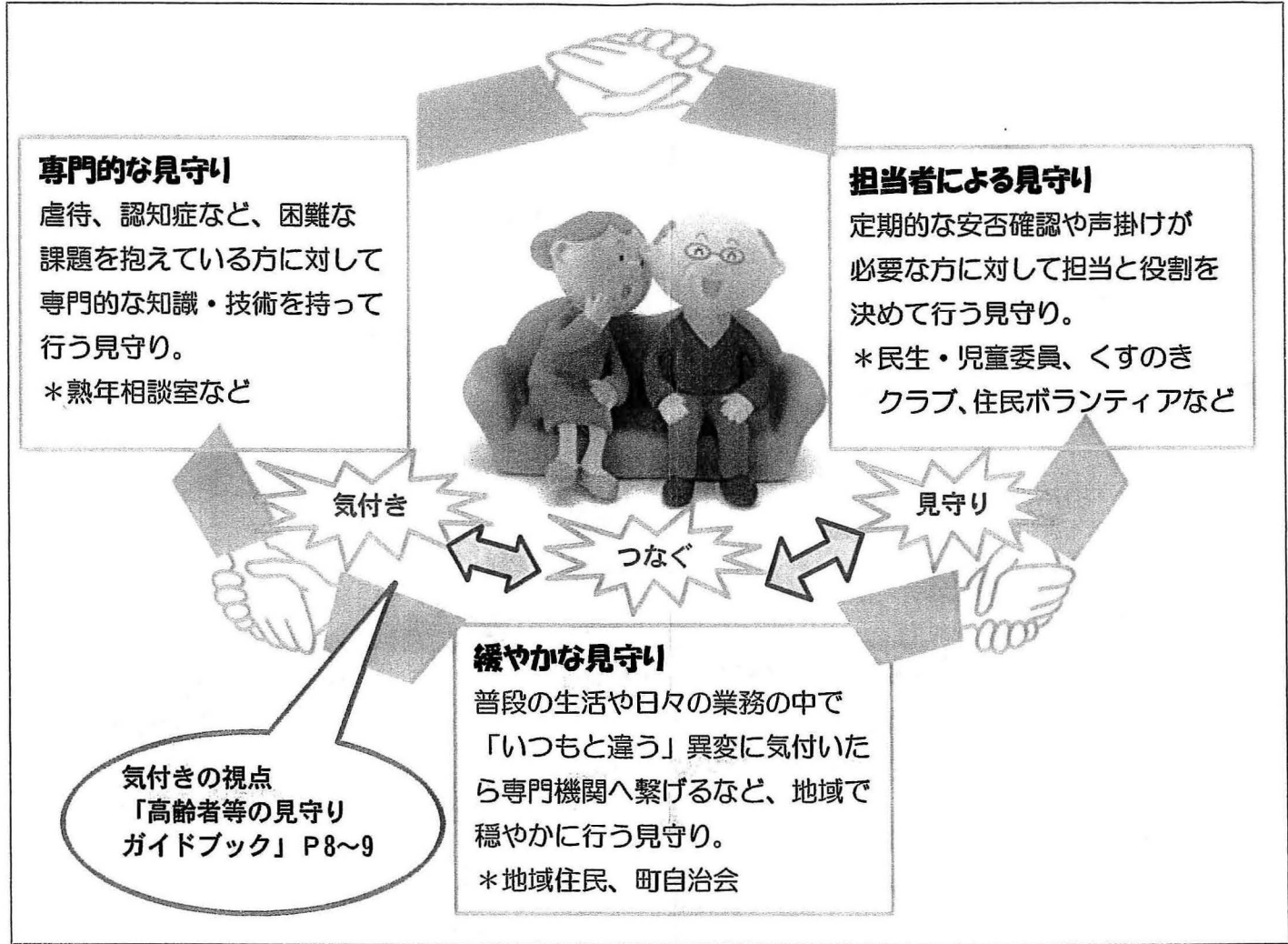
- ・高齢化率と相談件数が必ずしも比例していない。高齢化率が高くとも相談件数が低い地域も見られる。  
⇒必要な方に当相談室の役割がまだまだ知られていない可能性がある。（資料3）
- ・新規の相談ルートはフォーマル資源（公的機関、専門職）が多く、インフォーマル資源からの紹介で繋がる件数が全体的に少ない。（資料5）  
⇒当事者やご家族に、より身近なインフォーマルな方々との連携が必要となっている。
- ・支援困難や虐待対応など、切迫した相談、緊急性の高い相談が増えている。  
⇒早期に相談に繋がらず、状況が切迫した段階での対応となっている。（資料4、資料6）  
より早い段階で相談が繋がり、専門的な支援が開始できるネットワークが必要となっている。

★熟年相談室の出張講座・出張相談会の実施、地域向け機関紙の発行等により、PR活動を実施中！

- ・地域の助け合い・見守りは「プライバシーや個人情報の問題」、「町自治会未加入者の増加」等の課題もある。一方で高齢化の進む地域では、見守り活動や交流の場（サロン）の提供など独自の取組みも進められ、特に東日本大震災以降その流れも強くなってきている。  
⇒なぎさ和楽苑の担当圏域はマンションなど集合住宅の多さも特徴的であるが、戸建の多い地域、集合住宅の多い地域ともにそれぞれの特徴を生かした見守りの工夫が必要となっていきている。

《地域包括ケアシステムの“見守り”や“連携”の具体化にむけて》

☆見守りのイメージ



- ☆個人情報の『壁』：個人情報保護を理由に関係者で必要な情報を共有できない悩み  
個人情報保護法を正しく理解し、個人情報を適切に管理しつつ上手く活用することで、  
個人情報保護と地域福祉活動のバランスをとっていくことが必要となっています！  
「高齢者等の見守りガイドブック」P23～29

- ☆連携の『鍵』：様々な立場や職種から地域の課題を出し合い共有できる。

互いの役割や取組みを知り、  
顔の見える関係（相談しやすい関係）が築くことで、  
自分の地域・活動に生かすことができる。



地域への連携にむけて、後半のグループでの意見交換、情報交換の場をご活用ください。